

延岡市塩浜地区を訪ねて

部落解放・人権西日本夏期講座参加報告

「第42回部落解放・人権西日本夏期講座」が、6月22・23日に宮崎市で開かれました。

部落解放同盟宮崎県連合会延岡支部の書記長さんから塩浜地区の解放運動の取り組みを中心とした話をうかがいましたので、その一部を紹介いたします。

塩浜地区の様子と支部の結成

塩浜地区には、屠場、火葬場、野犬処理場があり、周辺地域から強烈な差別を受けていた。

1976年に部落解放同盟の支部を結成するとき地区の年寄りが一番反対した。それは、過去にこれまでいくら差別を訴えても誰も聞いてくれない歴史があったから。宮崎県行政も、宮崎には差別はないとして対応しない過去があった。そのような状況の中で、若者が年寄りの強い反対を押し切る形で支部を結成した。

1976年10月14日の夕刊「デイリー」紙は次のように報道している。

「延岡市では特別措置法成立後、同和対策には全く手がつけられていなかったが、解放同盟延岡支部が設置されたことよって、同法の期限ギリギリにして陽の目をみた。」

最初の支部の活動

支部の一番初めの要求は、火葬場を移転し、そこに子どもたちが集まる遊び場を造ることだった。地区には野犬処理場や火葬場など人の嫌がる施設が多かった。そのため強烈な偏見によつて差別され忌避され続けた。だからこんどは「人が集まる」施設を求めた。

火葬場が移転し、その跡地に立派なグラウンドができたが地区外の人には誰も利用しようとしなかった。「あのグラウンドでケガをしたら伝染病になる」などとも言われた。そんな状況を打破しようと「グラウンド利用者会」をつくり、今では地区外の人でも利用するようになってきた。「みんなが使ってくれるグラウンド

に」という願いがやっとかなった。

私の十月十日

母は地区で生まれ、看護師になった。宮崎県内のある町で看護師として働く中で父と出会った。交際が始まる中で、母のお腹に命が宿り、一緒になろうと誓った。しかし、父の家族も母の父親も、猛反対した。それでも、何度も通つてくる父を地区の人が励ました。

私の「とつきとおか」はまさに差別との闘いだった。もし、両親が厳しい結婚差別と反対の中でサジを投げていたら、自分はこの世に生まれてくることはなかった。差別は人の命を奪う。差別をなくすことは、命を守り、命を育てていくこと。差別との闘いをそれぞれの生き様と重ねながら、差別のない社会、差別のない人の世に向かつて近づいていきたい。

そのほかにも、塩浜地区の住宅販売にかかる差別事案、延岡市への同和地区問い合わせ事案など、現在も続く部落差別についての報告を聞きました。

知っていますか？

建退共制度

建退共制度は、中小企業退職金共済法に基づき建設現場労働者の福祉の増進と建設業を営む中小企業の振興を目的として設立された退職金制度です。

加入できる事業主▼建設業を営む方
 対象となる労働者▼建設業の現場で働く人
 掛金▼日額310円

★特長

- ◎国の制度なので安全、確実、申込手続きは簡単です。
- ◎経営事項審査で加点評価の対象となります。
- ◎掛金の一部を国が助成します。
- ◎掛金は事業主負担となりますが、法人は損金、個人では必要経費として扱われ、税法上全額非課税となります。
- ◎事業主が変わっても退職金は企業間を通算して計算されます。
- *ホームページ「建退共」で検索できます。ぜひご覧ください。

◆問い合わせ先

建退共鳥取支部
 (鳥取県建設会館内)
 ☎0857・24・2281